日本福祉大学 2017 年度公募型研究プロジェクト（重点研究枠）　研究成果報告

研究代表者　所属・職：社会福祉学部・准教授

氏　　名：斉藤　雅茂

研究課題名：保健福祉実践・行政・調査データを統合した高齢者への生活支援・介護予防事業のプログラム評価

取り組み状況

・本プロジェクトでは、新しい介護予防・日常生活支援総合事業の取り組みとして、ちょっとした困りごとを抱えた高齢者とボランティアとして地域の中で手助けする元気な高齢者等をつなぐ仕組みづくりを推進する地域支え合い事業（名古屋市）と、健康づくり・介護予防活動を推進するために導入されたスマイルポイント事業（常滑市）に着目し、保健福祉実践・行政・調査データに基づいたプログラムの効果評価（高齢者の健康度にもたらす影響の評価）を行う。具体的には、以下の３点に着手している。

(1) 国際的にも貴重な高齢者への大規模調査（JAGES（日本老年学的評価研究）プロジェクト）と連携して、本事業参加者への追加調査を実施し、プログラム評価にむけた研究基盤を整備する。

(2) 両事業について、参加群・利用群と対照群を設定して、質問紙による追跡調査を実施する。分析に際しては、傾向スコア・マッチング法などを用いて、諸属性の影響を考慮した上での１年後の中間アウトカム指標（健康度自己評価、抑うつ傾向、社会関係など）の変化・相違を明らかにする。

(3) 上記の結果について、実践現場へのフィードバックを行うとともに、新しい介護予　防・日常生活支援総合事業におけるプログラム評価のプロトコル（手順書）と留意点を整理する。

・2017（平成 29）年度は、本学健康社会研究センターにおいて 11 回の事務局会議を開催し、常滑市での現地共同研究会を 4 回、名古屋市での現地共同研究会を 7 回、実施した。また、本研究の実施に関して、本学倫理審査委員会の承認を得ることができた（17-23）。

・常滑市については、2016 年度に実施された JAGES プロジェクトによる「健康と暮らしの調査」をベースラインにして、スマイルポイント事業参加者名簿に基づいて、参加者と非参加者からそれぞれ 750 名の無作為抽出を行い、11 月～12 月にかけて追跡調査（質問紙調査）を実施した。回収率は 85.2%と非常に高く、質の高いデータが収集された。今後、ベースライン調査データとの突合を行い、プログラム評価のためのデータセットを整備する。

・名古屋市については、予算の都合上、本助成単独で調査は実施していないが、収集したデータのクリーニング、65 歳未満の被保険者番号のないサロン参加者への調査原票の配布・回収が実施できた。

・上記を踏まえて、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)「統合データに基づく高齢者への社会的孤立軽減にむけた地域福祉実践のプログラム評価」を申請した。

研究成果の内容

以上のように、本プロジェクトは概ね当初の計画通りに進捗している。２つの地域で現地共同研究会の組織化がなされた点は一つの実践的な成果と考えられる。また、上記の通り、とくに常滑市調査において回収率の高いパネルデータを整備できた点も重要な研究成果といえる。他方で、初年度はデータ整備で終了しており、研究成果を発信できる段階には至っていない。今後データ解析に着手し、2018 年度中には国内学会の報告および論文執筆に取りかかる。